

氏 名：蜂ヶ崎 令子

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 142 号

学位授与年月日：2016 年 3 月 10 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 亀井 智子（聖路加国際大学教授）

副査 菱沼 典子（聖路加国際大学教授）

副査 吉田 千文（聖路加国際大学教授）

副査 山本 栄（東京理科大学名誉教授）

論 文 題 目：点滴スタンドを伴う歩行における安全で負担の少ない方向転換方法の検証

入院患者に点滴治療が行われる頻度は高く、その患者が点滴スタンドを伴って歩行する機会も多い。ところが、これまで点滴スタンドを伴った安全な歩行の方法についてのエビデンスとなるデータがなく、患者教育に加え、看護教育においても具体的な指針は示されてこなかった。

本博士論文の研究目的は、平坦で一定条件下の実験的環境を設定し、60 歳代の健康な男性を被験者として、点滴スタンドを使用した歩行において筋運動、歩行姿勢、射角度、主観的安心感などを指標として、直線歩行、および方向転換動作を行い、これらを撮影した上で身体的、心理的影響を人間工学的見地から分析し、安全で筋効率の良い点滴スタンドの操作方法を示すことである。

本博士論文では、点滴スタンドを伴う歩行の安全性の確立をめざし、標準的な方法を見出すことについての意義があり、これまでほとんど着目されてこなかった点滴スタンドを伴った歩行について、人間工学的な視点により分析を行い、スタンドを伴った歩行では、歩行速度の低下、歩幅と腕振り角度の狭小化、頭部角度の前傾があることを見出し、左（利き手と反対側）で点滴スタンドを把持して左折する場合、一旦停止することが必要であるとの結論を示したものであり、点滴を行う患者の安全と安心につながる貴重な研究であると高く評価された。

審査の過程では、次の点が指摘され、修正が求められた。

1. 研究全体の経過については、文献検討から得た知見、予備研究 1、予備研究 2 から得た知見をもとに、本研究で何を示したいのか、これまでの研究流れや位置づけ全体が把握できるように明示すること。
2. 歩行や点滴スタンド操作の安全性は、動作がスムーズであることよりも重視する必要がある。また安全性は環境に応じて変化するものであるため、これらの点について概念枠組みや本文中に追記する必要がある。文中に、「安全」「安心」が混在しているため、研究の概念枠組みに照らして修正すること。
3. 研究目的と概念枠組みの整合性を検討し、両者を修正すること。また、研究目的に沿った結論を示すよう修正をはかること。
4. 研究方法のうち、実験方法にスタンドの条件、被験者の服装、履物の条件などを加筆すること。方法論にある「調査研究」の記述は「仮説を検証する実験研究」と修正すること。

5. 研究結果のうち、被験者特性の表中のデータの示し方を再考し、修正すること。また、筋活動については、被験者の点滴スタンドを持たない場合と持った場合の直線歩行、および方向転換歩行の相対的筋活動として、結果を示すこと。また、被験者の視線の動きやスムーズさなども詳細に分析して結果に含めること。
6. 考察では、研究の概念枠組みに沿って、考察を深く行うこと。

これらの点について、修正が行われ、審査員全員が修正は適切に行われたことを確認した。

本研究は、看護実践に有用で、実践に直結した重要な基礎的研究であり、今後様々な状況で点滴治療を受ける患者においての点滴スタンド利用の標準化に貢献すると考えられ、発展性が期待できる研究である。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。